

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念として、昔ながらの家屋で高齢者とともに生活する”というものを掲げている。これは、開所当初からのものではあるが、当初より、共に生活をするという事は、持ちつ持たれつの関係で成り立っているものである。その為には、施設といえども、ここだけでは成り立つものではないと考え事業を行っている。この理念の中には、奥深いものがある		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、目のつくところに掲示してあるのと同時に、共に生活をする事の意味を、日々ではないが、ミーティング等の機会や、事あるごとには話をして共有している		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	理念だけを打ち出す事はしていないが、運営推進会議というとても良い場があるのと、情報誌を媒体として、地域の方等には自然に受け入れてもらえるようには努力している	○	それでも、まだまだ地域の方への理解というのは難しいと思う。より、多くの方に理解してもらえるように努力をしていく必要はあるように思う。そして、利用者がより、地域の中に入っていったり暮らしやすい場になればいい。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	道で出会った人や、近所の方、世話になっている方・・・挨拶や会話を日常的に持っている。普通のお付き合いをしている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	隣保班に入っており、地域活動(側溝掃除・・・)やお祭りにも参加しており、また、町の催し物にも積極的に出かけていっている。特段に変わった事をするのではなく、普通の交流を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>推進会議にて話し合いを持ち、介護相談日を設定したり、認知症についての話しを地域に向けて行ったりしている</p>	○	<p>地域に向けての取り組みを、昨年度から始めたばかりなので、少しずつ、話し合いを持ちながら、今後も進めていきたい</p>
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>外部評価に関しては、具体的には行っていない</p>	○	
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>報告や話し合いを行っている</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業所側は、会議以外にもなるたけ足を運ぶようにはしているが・・・また、会議以外でも、協力してもらえる所は、してもらっている。相談もしているが、行き来となると、市の職員もどうなのでしょうか？具体的な取り組みについて、ご意見をいただきたい</p>	○	
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者は学ぶ機会を積極的に持ったりはしていた。現在も、成年後見制度を利用している方はおり、権利擁護事業に関しては、現在は無いが、過去に利用した事もある。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法律については、具体的には学んでいない。しかし、虐待に関しては見過ごされることがないように注意を払っている</p>	○	<p>高齢者虐待法について、勉強会を設ける</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	改めてはもうけていないが、普段の会話の中より、聞き取り、それをカンファレンスや日常的に、反映出来るように努力している。また、外部者に関しては、介護相談員に定期的に訪問してもらい機会を持っている	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	運営推進会議の場での報告や、家族の方の来訪の際に、必要に応じて報告したり、緊急性があるときは、速やかに電話にて行っている	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にて設けたり、家族の方の来訪の際に機会が持てるよう、管理者や職員との会話を勤めて取るようにしている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的に持ち、意見等を聞く機会を設けている。その他は、朝の申し送りの時間であったり、個別的であったりする	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	勤務の調整は行っている	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は理解しており、異動は殆どない。また、離職する職員はいるが、少しでも働きやすい職場にする為の努力はしてもらっている	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は特に行ってないが、管理者がそれを担っており、研修等の機会は設けている。	○	ここ一年近くは、きちんとした社内での勉強会を行っていないので、来年になれば、きちんと計画を立てて行っていく予定である
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は行ってないが、管理者がそれを担っている。連絡協議会の活動を通して、横のつながりを大切にしており、交流の機会を設けている		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者に対して、相談等にはのっってもらい、ストレスの軽減につながっている。職員に対しては、管理者が担っており仕事に対して、職員の個性を活かしてもらったり、愚痴や相談にのったり、定期的に親睦会を行ったりしている		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は、管理者に対しては把握しており、職員に対しては管理者が把握して、運営者に把握してもらっている。向上心を持って働けるようにするには、一番が労働条件で、特に賃金面ではあるものの、事実上難しいのが現実である。しかし、ちょっとした、関わりから生じるものもあるので、そのような努力はしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には必ず、家族の方だけではなく、本人にも会い、生活状況等を把握すると同時に、現在の本人の状態等もきちんと把握するよう努めている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居前には、家族の方ともきちんと話しをして、種々の事柄を聴取するよう努めている。必要に応じて、こちらから、家族の方の不安等を聞き出せるような会話をするようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時は、きちんと受け止め、その方の状況等を見極めながら支援を行ったりしている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	可能な限り、入居前には本人も一緒に施設に来てもらって見学がてら、少しの間でも皆さんと過ごす機会を取ったり、入居後も、新しい場所や他の入居者さんや職員とも馴染めるように努力している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	持ちつ持たれつの関係であるよう常に生活をしている。一方的な介護からは信頼関係も築きにくいものであり、理念である、共に生活をするという事は喜怒哀楽も共にするという事である。ややもすれば、一方的な、介護に陥りやすかったりする事もあるので、修正を繰り返しながら行っている		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	本人の様子等をきちんと伝え、職員だけでなく、時として家族の方にも協力してもらいながら支援をしている		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出等の支援や、訪問にて家族と過ごす機会を設けてもらったり、施設の一泊旅行や忘年会等の行事への参加を呼びかけ、一緒に過ごしてよい関係を保てるように支援している		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居したと同時にこれまでの関係がなくなるのではなく、馴染みの人からの訪問や電話、手紙が可能な方には、その支援を行ったりしている。また、馴染みの場所への外出への支援にも努めている		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	特に孤立しがちになりやすい方には、職員が間に入り皆と、関わりあえるようにしている。関わりあう事で、また支えあう関係も築けてくる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期入院により退居された方には、本人に会いにいたりという事をしたり、家族の方には、相談はいつでも受ける意向や、寄ってくださいとの話ぐらいで、具体的には家族の方との関係はあまりないと思う	○	地域密着の中、近くに住まわれている方なので、継続的なお付き合いができるように具体的に考えていきたい。その中で、困った事などの相談が必要がしようじる事もあるかもしれない
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人から直接的に聞くのは難しい方には、関わりの中から把握するように努め、それをケアにつなげるようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前には、家族の方等から話しを聞き出来る限りの情報を把握するよう努めているが、入居後も、面会に来られた折などの会話より、知る事もあり、また、時として具体的に聞いたりして、入居後も情報の収集は行っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その方の、その時の心身の状態によっても生活は変わってくるので、日常的にケアの中で行っていると同時に、その方の出来る事を引き出せるよう総合的にも把握するよう努力している		
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	定期的カンファレンスを実施しており、また、本人との関わりの中から課題(希望等)を見つけ計画担当者本位の計画にならないように作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に見直しを行っており、心身の状態等が変わった時など、見直しの時期が来なくとも必要に応じて計画のたて直しをしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録に日々の様子を記録しており、心身の状態等、いつもと違った事があったときなどは、記録の中に印をして、より職員が共有できるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	臨機応変に行っている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域にあるホール(公園付き)の利用や、図書館の利用等を日常的に行ったり、囲碁ボランティアをお願いしたりしている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に行っていない		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行っていない		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も、家族等の希望を尊重して、病院の受診を行っており、統一した医療機関ではない。協力病院である近くの病院に関しては、こちらで基本的には受診の支援を行っているが、少し遠くなると、家族の協力の下受診してもらっている。その旨も、入居時には話しをして同意を得ている。但し、緊急時等はその限りではない		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	○	
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化・終末期の方はいないが、まずは、現時点での家族の意向はきちんとした説明の上、聴取していく</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>別の所に移られた際には、情報提供はきちんと行っている</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの損ねるような言葉掛けをしないよう、日常的に配慮しているが、時として、そのような対応が目立つような折には、会議等にて、話しを行い、職員に再認識してもらうようにしている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	一方的な言葉掛けにならないように配慮したり、言葉の理解の程度に合わせた対応や、言葉で表現できない方には、関わりの中から読み取るようにしている	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で日々の生活が進まないようにしている。その方のペースを大切にしている	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	誰もが同じような身だしなみにならなく、その人らしい支援をしている。頭髪が長い方は長く。散髪も、皆さんそれぞれである 洋服も、自分で選べない方には、その方の好みの色や形を尊重している	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は全員ではないが、力量に応じて一緒に行ったり、一緒に食事を摂って、食事時間を長く取ることにより、楽しい一時を過ごしている。後片付けも、一緒に行っている	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	夕食時の晩酌や、夕食後、後片付けを終えた時間に、アルコールを飲みながら、雑談や紙芝居等の時間をとり、ゆったりとした時間を毎日取っている。飲み物も、嗜好に合わせている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表を活用しながら、その方の排泄パターンを知り、その方に合わせた誘導を行い、なるべくオムツにせず、快適に過ごせるように支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、ゆったりと気持ちよく入れるように支援しており、その方のタイミングを見はからいながら行っている。基本的には毎日、入浴を行っており、夕食後に入る人、夜間に入る方もいる。また、夕方入浴にて拒否があった方も、夕食後に再度、声を掛けてみると入られる事もある		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中はなるべく、外にも出て活動的に過ごして、安眠につなげている。寝付けない人には、一緒に職員と過ごしたりして、無理に寝てもらふ事はしない。また、夜になると、自分のまったりとした時間を過ごしたい方もいるので、自分の時間を大切にもらっている。就寝が深夜にならないようには配慮するが、		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中で、その方に合った役割の支援はしている。また、コンサートやスポーツ観戦、外食等の個別的な支援を行い、その方の楽しみ事やストレスの解消につなげている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	その方の力量に応じて、お金を持ってもらっている方もいる。それで、買いたいものを購入したりされている。人数は少ないが		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午前から午後にかけて、散歩は日常的に行っている。また、出入りは自由な為。一人で散歩や、近所の家の犬に会いに行く人もいる		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	コンサートやスポーツ観戦、外食等の支援を行っている。また、年に1回、一泊旅行に出掛け、家族と入居者さん、職員との交流もはかっている。また、毎月全員で日帰り出掛ける日をもうけ、花見などにお弁当を作ったりして出かけている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話を掛けられる方はいないが、その仲介を行って、電話で話が出来るように支援したり、手紙のやり取りもされている方もいる		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	特に訪問時間の制限はなく、いつでも大丈夫のようにしている。また、気軽に来てもらえるような雰囲気作り(特に職員の態度や声かけ)も行っており、共有の場では、スペースを作るなどしている。また、所々に、ソファを置いて、好きなどこで過ごせるようにしている		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者や職員は理解しており、身体拘束も行っていない。しかし、ややもすれば、言葉や態度での拘束もありえるので、日々のケアの中で、目立つような事があれば、注意を促したり共有の認識として、会議等で話しをしたり、常に行っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵掛けはしてなく、開放的である。徘徊者はいるが、常に見守りや、言葉掛け、一緒に出掛けたり・・・としている また、一人で出かける方も居るので、いつでも好きに出かけられるようにしている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に、所在は把握するよう努めている。記録等も、共有のスペースにて行い、夜間は、定期的と必要に応じて随時確認を行っている。夜勤も、夜間に部屋より出てきた方に対してすぐに対応できる場所にて行っている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物を周りに置かないのではなく、危険なものは手の届くところにおかない様にするという配慮はしている。また、包丁は片付ける場所は決まっており、使用しない時は、きちんと片付けておいたりして、その物によって管理の方法は違う		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故等を防げるように、その方に応じて取り組んでいる。転倒の可能性のある方には、室内履きの検討や、声掛けすることによる、段差等への認識、また、行方不明の可能性のある人には、日常的な所在確認や出入り口のベル等の設置・・・皆で話し合ったりして防止に取り組んでいる。しかし、事故につながった時には、報告書作成と、原因と対策等を明らかにするようにしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年1回は、全員、消防署の行う普通救命講習に半日参加して、緊急時にも対応できるようにしている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と地域の方との協力の下、年2回、避難訓練、通報訓練。消火訓練を行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	当施設は、鍵掛けは一切していない為、種々のリスクは考えられるが、ある程度の自由な暮らしを大切にする為にも、特に入居時にはそれらの説明等を行い、理解に努めている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	申し送りによって、また、職員同士、日常的に情報を共有しあい、顔色や表情等の観察を常に行っている。様子がおかしい時には、バイタルチェック等を行いながら、様子観察を怠らず、必要に応じて、管理者への報告と指示、医療機関への受診を行っている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や用途等が記載してある書類を個人の記録簿に整理し、薬の袋の中にも入っており、職員が把握しやすいようにしている。また、薬の変更があったときには、情報を共有して、記録にも記載したり、服薬に関しても、その方の状態に応じた支援をしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日中はなるべく活発に身体を動かしてもらったり、飲み物の工夫や、食物繊維の多い食事作りや、朝食後のトイレへの支援等を行っている。また、その方の排便のリズムをつかみ、落ち着いた環境でのトイレへの支援も行っている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に行っている方、朝晩2回のかたも居る。状態に応じた口腔ケアをしており、声がけだけの人、介助が必要な人・・・それぞれの方法で行っている		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		
78	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p>		
79	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
80	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p>		
81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
82	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	使い慣れた物を持ち込んでもらうようにしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	日常的に風通しの良いようにしている。温度調節は、外気温 との大きな差は確かになが、夏は暑く、冬は寒い。昔ながら の生活である。衣服での調節はこまめに行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	必要に応じて手すりの設置をしており、段差の解消も必要な ところを行っている。古い家なので、手すりでなくとも、柱や 物等、何処でもつかむ所はあるので、どこもかしこも手すりは 付けていない。また、ある程度の段差はそのまま残しており、 階段には滑り止めを設置している		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	本人の状況に応じた環境整備を行っている。トイレの表示 も、言葉を変えてみたり、字にとらわれずに表示してみたりし て、必要に応じて環境整備を整えている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	庭が殆どなく狭いが、その中で、日向ぼっこ等が出来るように 必要に応じて椅子やテーブルを設置している。また、一緒に 庭掃除をしたり、洗濯物を干したりもしている		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

開設当初より、とにかく施設で過ごすという考えではなく、普通の家で一緒に生活を共にして、地域方とも普通の関係を持つという風に行ってきた。その為、隣組に加入するだけではなく、必要な行事の参加や冠婚葬祭の特に、葬祭の部分でもお付き合いもしている。日常的に外へ出掛けて、季節感を味わうと同時に、地域の方との交流も行って来た。幸い町の中心部に位置している当施設は商店街が目の前であり、食材の買い物も入居者さんと一緒に歩いて行っている。その為、徘徊者への対応も、町の理解されている方たちには協力体制が得られたりもしている。しかし、認知症や施設への理解はまだまだであると考えているが、毎月の情報誌を、地域のお宅に、足で歩き訪問して配布したり、認知症の講座を開いたりして、より理解が深まるように活動している。しかし、決して背伸びしたものにならず自然な形で行っている。毎年盛大に行われる、伝統ある夏祭りにも参加させてもらい、当日だけでなく、練習等が始まる時よりご一緒させてもらっている。

当施設は、昔、割烹料理屋さんだった所を改修して行っており、中は田舎の家を感じさせるものとなっている。昼が殆どで居間には、堀コタツがあったりして落ち着ける環境である。採光は決して明るくはないが、家で過ごしているような趣である。ハードの部分で使いづらい所はあるものの、それを職員たちが創意工夫しながら手作りで行っているのも特徴の一つである。